



千葉大学医学部同窓会報 第104号 題字 鈴木五郎

編集発行者

千葉大学医学部

みのはな同窓会報編集部

〒260 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部内

みのはな同窓会

TEL (043) 222-7171 内線 2038

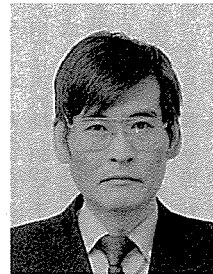
FAX (043) 222-7853

教授就任の挨拶

千葉大学医学部皮膚科学講座

新海

浩 (神戸医大昭和40卒)



その大切さを忘れることなく患者さんに接して行こうと思っております。又同時に教室内では各自の人格を尊重し、自由にdiscussion

千葉大学医学部形成外科

一 瀬 正 治 (千葉大昭和43卒)

平成5年3月に退官された岡本昭二教授の後任として平成5年9月1日付で大分医科大学皮膚科

学講座から千葉大学医学部皮膚科学講座を担当させていただくことになりました。

昭和40年に神戸医科大学を卒業後、同大学附属病院においてイン

ターン修了。神戸大学医学部皮膚科教室で臨床および研究を行い強

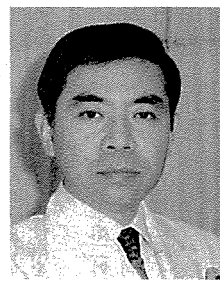
皮症患者の主治医となったのが、結合組織研究の出発点となりました。

東京医科大学歯科大学難治疾患研究所異常代謝学部門に国内留学後

恩師佐野教授の大阪大学医学部皮膚科への転出に伴い、昭和51年同

教室に配置換えになり、昭和53年ベルギー留学後、昭和55年大分医

科大学の新設に参加しました。結合組織いわゆる細胞外マトリックスは多細胞生物には必ず存在する物質であることから、皮膚科領域にのみとまらずあらゆる領域に関連し、学際的研究協力が望まれる分野であります。臨床分野においてもScienceする心、



9月にやつと形成外科の独立が認められ、科長(助教授)として今日まで努力してまいりました。形成外科は、この10年に目ざましい進歩を遂げ、外科系各科の再

する雰囲気を作りたいと願っております。更に次代を担う医師の育成に微力ではありますが全力をそぐつもりであります。従って他の講座の皆様にも御迷惑を色々とおかけすることが多いと思いますが、これからのよろしく御指導いただきたくお願い申し上げます。

この度、多くの先輩方の熱意と並ならぬご苦労によって、形成外科の新設が実現しました。そして、温かい御支援をいただき初代教授に就任の内定を戴きました。

私は千葉大学医学部を昭和43年に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

に卒業し、中央鉄道病院で研修を受けたのち、昭和44年において形成外科を鬼塚卓弥教授に師事致しました。昭和49年1月より帝京大学に移り、整形外科の中で形成外科の診療に長年従事し、昭和62年

千葉大学医学部同窓会名簿(平成五年版)

発行の御案内

新名簿が平成五年十二月発行されました。価格は送料込みで三千円です。名簿に関する問い合わせ、および、申し込み済みの方で本名簿が未着の方は、同

最終講義のお知らせ

○有水 昇教授

日時 平成6年2月1日(火)

午後3時30分

場所 附属病院第一講堂

演題「磁気共鳴診断の進歩と展望」

○金子敏郎教授

日時 平成6年2月2日(水)

午後3時30分

場所 附属病院第一講堂

演題「私が歩んだ痛み治療の道」

祝 平成五年叙勲・表彰

勲二等旭日重光章

井出源四郎(昭19卒)

勲二等旭日重光章

加納 六郎(昭20卒)

勲三等旭日中綬章

米沢 利英(東北大昭和20卒)

勲三等旭日中綬章

加藤 宏一(昭23卒)

勲五等瑞宝章

平形 義人(昭19卒)

勲五等瑞宝章

出井 三郎(昭17卒)

勲五等瑞宝章

磯部栄次郎(昭17卒)

演題「耳鼻咽喉科学教室のあゆみ」

○林 豊教授

日時 平成6年2月8日(火)

午後3時30分

場所 医学部大講義室

演題「環境汚染物質と肺」

○水口公信教授

日時 平成6年2月9日(水)

午後3時30分

場所 附属病院第一講堂

演題「私が歩んだ痛み治療の道」

大仏次郎賞(免疫の意味論)

多田 富雄(昭34卒)

37回野口英世記念医学賞

谷口 克(昭42卒)

警察医46年功勞千葉県知事褒賞

内田 成和(昭17卒)

警察医46年功勞千葉県知事褒賞

川辺 敏(昭18卒)

国民健康保険功績者厚生大臣表彰

中村 信成(昭24卒)

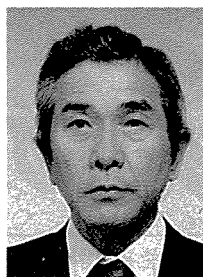
メリュー財団バスツール・メリュー研究所よりメダル贈呈

安村 美博(昭26卒)

教授就任の挨拶

東邦大学医学部外科学第三講座

碓井卓仁(昭和39卒)



教授のアドバイザーで代謝栄養の仕事に携わるようになりました。昭和50、51年にはコロラド大学、ハーバード大学に留学して研究をすすめる、帰国後も同じ仕事を継続する一方、肝胆脾の臨床にも関与し現在に至っております。

年一月に助教として赴任し、本年三月、教授に昇任致しました。教授になっても人間がなら変わる訳ではありませんが、これを契機に気持ち新たに診療、教育、研究に励み、医学の発展にいくらかでも貢献するような仕事をしたいと思っております。

磯野教授はじめ千葉大学第二外科同門の諸先生方、あのはな同窓会の諸先生方のお力添えに厚く御礼申し上げますとともに、今後ともこれまで同様ご指導、ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

高知医科大学第二外科教室

小越章平(昭36卒)



平成5年3月1日付けで東邦大学医学部外科学第三講座の教授に就任しました。勤務先は渋谷から新玉川線の一つ目の池尻大橋にある大橋病院で、世田谷、渋谷、目黒区などの住宅街に囲まれていること、繁華街の近くであることなどから患者層には恵まれており、それだけにやり甲斐があるといえます。

私は本学昭和39年の卒業で、一年間のインターン生活の後、40年に木内(現千大法学教授、深尾(筑波大外科教授、君らとともに第二外科大学院に入学し、故佐藤博教授に師事致しました。外科医としての基礎的研修を終えた後、生化学教室で三浦義彰教授に直接ご指導いただいた核代謝の研究に従事し、論文をまとめる一方、研究に対する考え方や仕事のすずめ方、まとめ方を教えていただきました。第二外科教室に戻ってからは一時岩崎治先生の手で腎移植の研究のお手伝いをさせていただきましたが、昭和47年頃から小越先生(現高知医大外科

平成5年3月末に定年退官された田宮達男教授(昭29年千葉大卒、平成5年4月7日直腸癌のため御逝去)の後任として、平成5年4月1日高知医科大学第二外科教室を担当することになりました。昭和57年4月千葉大学第二外科故佐藤博教授の主宰された日本外科学会総会を手伝った後、前年より赴任していた田宮教授のもとに着任しましたので、高知もすでに11年となります。着任の翌年には卒業1期生を出しましたので、すでに10期生まで世に送り出しています。

当学には免疫学教室に藤本重義教授(千葉大38卒)ががんばっております。同門教授は2人だけですが、スムーズに二代目を継承出来ました。田宮教授が心・血管外科、私が食道外科を担当してきましたが、これからは田宮教授と国立千葉病院時代から一緒だった山城敏行君(千葉大49卒)が助教として心臓・血管外科を担当しております。田宮教授とコンビで築いてきた基礎を、さらに発展させることが二代目の任務と思います。当医大はコンピューター利用のモデル校として通産大臣賞もっており、見学者が絶えません。

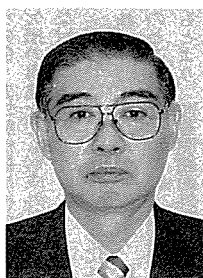
南国土佐は、坂本竜馬、中岡慎太郎、岩崎弥太郎、武内半平、板垣退助、吉田茂など教科書でお馴染みの人物を多く輩出していることは御承知の通りです。酒と魚

千葉県がんセンター長

鈴木

就任の挨拶

千葉大学医学部八十五年史
千葉大学医学部百周年記念誌
および
千葉大学医学部同窓会名簿
(平成三年版)



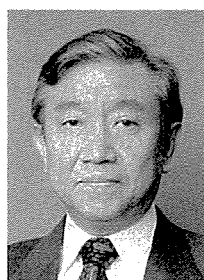
木通也(昭31年卒)

フは医療局366名、研究局17名、事務局48名で運営しております。

がんセンターの特色は、臨床診療部門と基礎研究部門の相互交流が盛んに行なわれ、診療各科の間の連携が円滑に行なわれていること

君津中央病院院長就任の挨拶

北方勇輔(昭35卒)



月大学を辞して君津中央病院に出張し、その後そのまま就職し現在に至っております。

君津中央病院としてのこれからの基本姿勢を以下のように二極型に置いて進めてゆく考えております。

1. 新規野に立つた地域医療
2. 診療の高レベル化
3. 全職員の協調と業務の効率化

平成5年4月1日唐木清一病院長(同日付、名誉院長)の後任として国保直営総合病院君津中央病院院長職を引き継ぎました。

私は昭和35年本学卒業、インターン終了後故郷岡山教授のもと第一外科に入局いたしました。更に放射線科故郷弘毅教授、市川平三郎国立がんセンター名誉院長(当時放射線科助教、有永昇教授(同講師)のご指の下、大学院を卒業いたしました。昭和44年2

「地域保健医療計画」における二次保健医療圏(君津)の中核的役割とともに、千葉大学関連病院として更に病院を整備充実させ、医療の質の向上をも図ってまいりますのでよろしくお願いいたします。

と氣候の良い所(台風の直撃は赴任以来経験してない)であり、当地においでの際はぜひ御遠慮なく

お声をかけて下さい。今後とも御支援の程お願い申し上げます。

とにあります。これからも更に研鑽を積みがん医療の中心として努力していきたいと思っております。皆様の御支援をお願いします。

クラス会だより

昭八会



昭和八年四月に千葉医科大学に入學した私共「昭八会」は、本年満六十年を迎えいわば「還暦」記念クラス会を、平成五年五月二十三日(日)に東京銀座三丁目十字屋ビル五階「木曾路」に於て、正午から開催した。昭和十二年三月に卒業当時八十二名だった級友が現在には $\frac{1}{2}$ の二十七名で、その又 $\frac{1}{2}$ の九名が出席し、夫人四名を加えて計十三名という昨年の二十名に比べて、や、少ない出席者であった。昨年引き続き本年度幹事の菅井規矩雄兄が開会の挨拶を述べ、本年惜しくも逝去された小泉寿兄、川北良平兄の御冥福を祈り、物故会員五十三名の霊に一分間の黙祷を捧げた。次いで幹事久富良次が

庶務会計を報告し、昨秋三浦市で開催された細井四郎兄の個展の油彩画集を回覧した。

久し振りにお元氣な顔を見せた岡村正明兄の乾杯の音頭によって宴に入り、懷石料理にビールや酒の杯を傾け、各自が近況や思い出を語り合い楽しいクラス会の時が流れた。

お互いに八十才を過ぎて老人性痴呆症などにならないよう、小松源二郎が診療体験を通しての呆け防止のお話はまことに有意義であった。

明年度(平成六年)幹事は、健康回復された藤 彰兄が引き受けられた。

出席者 十三名(敬称略)
林 武夫、菅井晴子、小川達子、久富 翠、尾本喜代子、佐藤 譲、藤 彰、菅井規矩雄、鈴木 敏、岡村正明、上川名誠一、久富良次、小松源二

(幹事 久富良次 記)

昭和28年卒業 40周年記念 クラス会

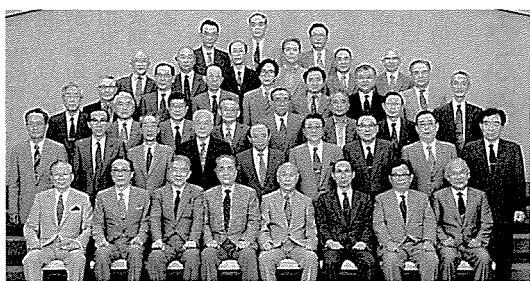
平成5年6月19日(土)、千葉市サンガーデンホテルに於て、卒後40周年クラス会を開催した。クラス会は、昭和60年10月5日に水口君の麻酔学教授就任祝賀会開催以来であり、本年が卒後40年という節目の年であるので、開催の運びと

なった。生憎雨模様であったが、八戸から黄彩延君、静岡から望月 徹君、近藤悟君等の出席もあり、44名の同窓各位の参加があり盛会であった。

会には先づ金子敏郎教授の学内事情の報告等があり、開宴後、参加全員に近況報告をして頂いた。皆寄る歳なみは65才前後になるが元気で各方面で活躍されていることは同慶の至りである。最後に水口公信教授から中じめの挨拶があり、次回は3年後に開催することを約して閉会した。

なお昭和28年卒クラス会は、去る昭和58年に卒後30周年の記念にゐのはなキャンパス内にしだれ桜の苗を約20本植樹を行った。その後10年の歳月を経て立派に育ち、毎年四月にはきれいな花を咲かせている。これからが楽しみである。

(奥井 勝二)



二八会(サンロク会)



平成5年3月7日東京バレスホテル若草の間において千葉大学医学部昭和36年卒(36会)の同窓会を行った。30名集まれば上出来と考えていたが37名の出席があり、女性群主催に対する男性各位の思いやりと感謝した。

豊食の時代、肥満、糖尿病の気になる年令でもあり、料理の方はほとんどに節約し脳の滋養をと、福井、山崎両先生にそれぞれ麻薬の現況、エイズについて貴重なご講演を頂いた。質問も多く思いの他関心が高いのを見て、36会メンバーに老いて益々好気旺盛との明るい見通しを得た。閉会間際、故、田紀克さんの13

回忌をやらうとの声があり、桜が満開の4月11日、同氏の墓参、偲ぶ会が行われ、22名の参加をみた。(三宅伊豫子・記)

三一會



昭和31年卒業した者の集いです。予定を立てやすいようにと言うことで毎年7月の第三土曜日に集ることになっています。昨年の会で発展著しい千葉県の顔の一つ幕張で開催しようとの意向を受け7月17日、ホテル・フランクで開きました。あいにく小雨の降る天候でしたが26名が顔を出してくれました。他に会合がいくつか重なり数名の方は掛け持ちで出席してくれました。北川定謙君の乾杯の発声で会が始まり、久し振りの再会に各所に笑い声が絶えず楽しい一時を過ごした後、一人一人全員の近



況報告が行われました。年令的に各方面の要職にある方が多く、話題は医療行政の話から病院経営の苦心談、更には市政の話など多方面にわたりました。上野恭一君の「おおよよ」の歌声が朗朗と流れ会は一気に盛り上がりました。当日参加した諸兄姉は次の方々です。諸狩好令、庵原昭一、井嶋宏、上野恭一、上原すゑ子、小澤強、大島一浩、小野清四郎、加藤繁夫、蟹沢成好、北川定謙、桑原久、相楽恒俊、関光倫、高澤五郎、滝沢明祐、徳山輝男、中野喜久男、西原源太郎、西澤護、野沢栄司、森碧、山口慶三、山口豊

幹事鈴木通也、重田英夫
一月四日他界された小林誠一郎君の冥福を祈り、来年の再会を約し散会いたしました。(鈴木通也記)

もぐら会 (昭23卒)

さきの大戦勃発後三年、既に戦況に利あらず、マリアナ基地からの本土空襲激化の折しも、昭和19年10月、吾等は本学に入學した。

前年よりの学徒戦時動員は戦線拡大に伴う軍医養成のため徴兵を延期された吾等には及ばなかった。その様な時、ある者は巻脚絆を腰に、鉄兜を背に通学し、授業中の空襲には大学連絡道路下や防空壕に潜み、また出でては実習を行うの反復であった。これを忘る勿れとの意よりクラス会をもぐら会と称した小林康郎君発案。併せて、もぐら(土龍)は何時の日か土より出でて龍と変化した。勇躍宇宙を



飛翔せんと希求してのことでもあろう。因みに、この大戦における戦死者は吾等大正13年生まれ前後が最多であったという。

斯の如く、戦中、戦後の苦難を超えて、卒後はや45年を迎えた吾等のうち、平成5年9月11日、東京パレスホテルに集うもの39名、年次行事ながら、再会を喜び合った。

板垣、上野両幹事司会のもと、まずは、先頃逝去した、オギノ氏の法野野君の冥福を祈った。ここ数年、年ごとに石川清文、近藤、伊東宏一、大西誠、中村昭、吉岡勇雄の各君を相次いで失ったのは無念である。しかし、前大戦の犠牲者を含め、平均寿命を俟たずして逝った同年代の友に代って、せめて吾等はより長く、楽しく生きて、為すべきを求め続けることが故人への供養になる、と語り合った。乾杯の後、吉田学長よりクラスメートたちに千葉大学の現状について報告があり、夫々在学当時よりの時の流れをあらためて感じた。次いで、卒後初参加の斉藤君の久闊の挨拶を皮切りに、交々近況を語る輪は拡がった。古稀必ずしも稀ならざる今日と雖も、老青年たちは、人生70年の節目を慶び合い、三々五々医学、医業、趣味、健康などにつき類を染めての歓談の刻はこよなく楽しい雰囲気であった。しかし、時に限りあり、次回の幹事は工藤、村田の両君、日時は9月11日、同所と定め、夫々が手帖に記入し、何時も乍ら戸沢君の御苦勞による記念撮影の後、再会を約して会を閉じた。わがクラスは途中転入者を含め131

名、物故者31名(平成5年11月現在、31以上の級友の健在は心強いが、平均余命を思うとき、進んで旧友との楽しい時を過ごすべく、次回にはより多数の出席を切望する。

出席者氏名、有賀、井上、伊東、石川、板垣、岩間、上野、大津、大和田、工藤、窪田、窪谷、黒須、斎藤、杉山、多賀谷、高村、竹内、戸沢、奈良、中村(敏)、西村、萩原、林、平岡、藤井、藤崎、堀江、前田、松下、松山、宮崎、村田、山口、吉岡、吉田(作)、吉田(充)、吉田(亮)、吉平田、(伊東和人記)

みふみ会 (昭32卒)

平成5年度みふみ会例会は、9月25日(土)、木更津市ホテル八宝苑で開催された。

まずまずの秋日和であった。予定の電車より早く、蟹沢、和賀井さんらの女性達が木更津駅に着く早速八宝苑迎いのバスに乗り、内田君を除く全員が揃ったところで出発。

幹事を代表してまず三枝が挨拶。これから東京湾横断道路の工事現場を見に行く。木更津市街を抜け、元海軍航空隊基地(今は自衛隊の航空祭を控えて準備中)を左に見て金田海岸に着く。このあたりの説明役は幹事に加わった保健所長の川口君。

現場はまだ橋桁が立っている程度だが世界でも最大規模の海洋土木工事だという。全15・1kmで、平成8年度に完成予定。車は再び市街に引き返し、木更



津港を眺めて證誠寺につく。町を流れる矢那川のはとりにある浄土真宗の名刹は萩が盛り。

白萩の花の盛りの證誠寺。かずぞ幹事の一人である隆君はここで住職に早変わり、古き木更津の歴史から、狸の伝説の由来と野口雨情の詩を紹介、ついで人の生き方すなわち仏法にさりと触れたのは流石であった。なお奥様のお茶の接待も由緒あるお寺ならではの優雅なもの。ここで高橋柳子さんが合流して未来の研究都市、かずさアカデミアパーク、これも建設途中を見学。木更津高校を過ぎて東へ進み、やがて工事中の道を右に折れると房総半島の中部丘陵地帯がひらける。川口君があらかじめ借りておいた展望台の鍵を開けて螺旋階段を上る。すぐ近くにはかずさDNA研究所が建ち始め、

西には夕日の東京湾を望み、南北に走る山並みはこれからの発展を期待しているように見えた。山拓く未来の都市のいわし雲かずさ

夕方、5時を少し回って会場に着く。受付を終わり、今井君がすべり込みセーフで記念写真を撮る。6時、高橋会長の挨拶と大学の近況に始まり、川口君の最近の木更津の状況の説明の後、遠来の野本君の乾杯で宴会が始まる。今年は初めて夫人同伴で、木下君、隆君、西村宏君それに私が同伴組となり、地元奇麗どころによる正調木更津甚句をはじめ華やかな唄と踊りで最後は隆和尚を中心に幹事一同、證誠寺の唄でお開きとなった。

なお今回は船橋の佐々木君、和賀井さん達に依頼して幹事を引き継ぐ。(三枝一雄)

春秋会

(昭31年卒、開業医グループ)

平成5年11月13日、東京神田の「花汀」で江戸懐石を囲む。

庵原昭一国立千葉東病院長に「肺結核の現況」についての話を聞く。同君が同級生に講演したのは二度目。最初は学生時代の臨床講義で、ベニシリン・シヨックの体験を話した。あれから四十年の歳月である。

小沢君は脳溢血で五年前に倒れ、再起不能の宣告・闘病・リハビリなどの体験談。完全復帰しての春秋会出席に一同激励の大拍手。

土浦市医師会副会長の海老原君が、平成5年の秋の皇室園遊会に

厚生省関係の推薦者として出席。皇族のファッションなど優雅な話を聞かせて頂く。

上野は文春93年版ベスト・エッセイ集に随筆が入選したこと、「朝霞方式物語」の出版を披露。山ほどの賛辞を頂く。大島君が出版記念会の二次会を提案してくれ、体力の限界なので固辞。

今回の会を設営した小野君(春秋会は彼にオンブにダッコ)の会が、六十代は人生の収穫期と、ナントモ頼もしく結んだ。

参加者は小野清四郎常任幹事、庵原昭一、大島一浩、滝沢明祐、小沢、強、桑原、久、辻、輝蔵、神尾、鋭、中野喜久男、川上秀一、海老原雄一、上野恭一広関係。夫人三人。(上野 恭一記)



各地ののはな会だより

シルヴプレサセボ・どうぞ美しいサセボへ

九州ののはな会

第9回九州ののはな会は長崎県担当で、平成4年7月25日(土)、26日(日)の両日、佐世保市を拠点に開催された。

平成2年、熊本県人吉市で催された第8回本会で、次期は長崎県が担当するよう要請があり早速、

平成4年7月現在、九州ののはな会は、古寺秀喜会長(昭22卒、福岡市内科医会長)、谷川久一、

章子幹事(昭33卒、久大2内教授)の下、総勢50名の同窓の先

生方を算えることができるが、九州全域という広域に渉るため、

学会多岐のため、老問聖職を強要される医業という職種のため、

全ての先生方が一堂に会することは凡そ不可能と思われる半数の25名

前後の出席に落ち着くのが通例である。

今回、佐世保市を拠点にさせて

頂いたのは本年3月25日佐世保市郊外に新築なテーマパークとは別

にウォーターフロントの都市作りを試みたハウステンボス町が出現

したこともあった。

交通事情が整備されたとはいえ、

佐世保市は決して交通至便とはいえず、当初お集まり頂くのにいさ

さか不安であったが、メインの同窓会以外に翌日のハウステンボス

観光という目玉商品と、中には第二次大戦の戦中戦後、当市に関

わった先生もおられその懐かしさとも相俟ってか、ご家族ともども

今回22名のご参席を頂き、当初の杞憂は払拭された。

軍港から脱皮し、戦後観光都市を謳いながら25万人口の佐世保市

にしては、偉容を誇り一時的にも粉飾しうるようなホテル・料亭な

く、世話人として内心忤ねたるものがあつたがお集まり下さるの

には便なる佐世保駅前シティホテルを会場として、予定通り午後7

時古寺会長ご挨拶、仙波大先輩乾杯のご発声で総会の宴が始まった。

会計報告、同窓会現況報告、自己紹介近況報告、戦時関わった佐

世保の想い出、矢野明彦長大医動物学教授新任挨拶、特に逸品で

あったのは、仙波先生世界旅行巡りの途次、先生知己の米國教授が

矢野教授の師で、米國留學中ご誕生の息女の名付親であったエビ

ソードが披露され、初対面ながらその奇遇に両先生はもちろん、一

同歓声うずまく一幕もあり瞬く間に時間が経過した。

終宴に臨み、古寺会長、谷川章

子先生の発案で九州ののはな会報発刊の提言がなされ、編集委員

に森永・田代両先輩が推薦されその任に当てられることとなった。

次年度同窓会を福岡市の矢加部

田辺両若手先輩に託し、来仙川内

市医師会長の万歳三唱の中、千葉

の同窓生という言い知れぬ喜びに浸りながら本席をお開きとした。

翌26日(日)佐世保市郊外(車で30分)のハウステンボス観光は、

夏季休暇第1日曜日でもあり混雑が予想されたので9時開園と同時に入場したが、まさに炎暑烈日の

教育であった。

長崎県大村湾の北端に誕生したハウステンボス町は、6年前事業費2千億の投資で工業用地として造成された152ヘクタールの埋め

立地を舞台に、オランダの街並みを備えた「水辺の町」として実現化したものでウォーターフロント

の都市作りの試みとして一見の価値がある。

一行、カナルクルーザーで運河を巡って街の中央にそびえるドム

トールに着き、ベアトソックス女王の宮殿などを見学したもの、

あまりの広大な敷地と炎天下にいか健脚の皆さまでも、とても短

時間で満喫しうるスケールではなく、いささか辟易し入った食事

処が二次の同窓会席となった。

お疲れも見せない皆さまのお顔やお話を伺っていると、2日間のこのプロジェクトが、同窓とい

う語の中、分け隔てない共同意識を育み、大きくふくらんだ想いのロマンの一刻を結実させた

ように思えた。

遠路はるばるお越し下さった先生方から、早速「大変愉しいのはな会であった由」のお電話お端

書きを頂戴し、お世話させて頂いた一人として素晴らしい時間と空間と誇りを抱かせて頂いたことに心から感謝申し上げます。

出席者名

仙波 武臣(昭9)、仙波 イク

明 早苗(看) 吉田 武子(事、

来仙 隆(専18)、森下 博夫(昭

19)、森下 歳子及び御息女、古

寺 秀喜(昭22)、森永 宗雄(昭

22)、西 高広(昭23)、西

道子、田代 豊一(昭24)、原

寛(専26)、山下 卓(昭29)、

谷川 章子(昭33)、矢野 明彦(昭

47)、矢野 博子、矢加部 茂昭

48)、田辺 雄一(昭55)、山口

國行(昭37)、山口 榮子

(山口國行・昭37卒・記)

中京ののはな会

中京ののはな会は、東海三県愛知・岐阜・三重の千葉大学医学部出身者の同窓会で44名の会員からなります。

平成5年度の同窓会を、松井宣夫教授(名古屋大学整形外科、S38卒)の発起で、高野正義先生(東海北陸医療局長、S38卒)の

歓迎会として、二月十八日、午後六時半より、名古屋 Hilton ホテル、王朝で行いました。当日は、

既に寒は明けたとは言えど、インフルエンザが猛威をふるい、残念ながら、当日体調をこわされて参加されない先生もありました。し

かし会場は温かく、開会の挨拶、自己紹介のあと、なごやかに老酒を傾けながら、亥鼻の思い出、知

人の消息、最近の医療情勢(特に高野先生は、医療行政の要要におられるので、最近の動向と、将来

のビジョンについて一言一句がたいへん示唆に富み、貴重なお考え

が伺えたと一同感謝致しました。

さらに医師会活動(一宮市医師会長の米本先生の論議も日常臨床に携わっている開業医の心情を表わしている)と好評でした。)など、夜

の高熱も忘れて楽しい一刻を過ご

し、又の再会を約して散会した。

なお、会員数の減少している当

会に一つの大きな喜びがありま

した。それは、吉田行夫先生が金

沢医大より愛知医大、第2解剖学

教授に栄転され出席いただいたこと

です。私事を申せば、吉田先生

とは学生時代によく将棋を指し、

敗かされたことが思い出されます。

当日の出席者は、伊藤源一(当会

会長、昭5卒)、林武夫(昭12卒)、

佐々木三雄(昭26卒)、米本昭彦(昭

29卒)、高野正義(昭38卒)、松井

宣夫(昭38卒)、市川清子(昭41卒)、

岩間汪美(昭43卒)、吉田行夫(昭

44卒)、伊藤文二(昭45卒)、三浦

利重(昭46卒)、山口英明(昭50卒)

(幹事・三浦利重、岩間汪美



九州ののはな会

九州ののはな会

九州ののはな会

九州ののはな会



中京ののはな会

首都圏産婦人科のなな会

本会の第10回例会が、平成5年9月25日、新宿のオークラスカイレストランで開催された。会員は、のとはな同窓会、教室の出身で、首都圏で診療している産婦人科医。会の目的は、卒後研修・美食・親睦。

この日の勉強会は、7月1日付で、産婦人科教授に就任した関谷宗英先生の「婦人科ガン臨床と基礎の接点」と題する講演。多くのスライドを使って、各種胚細胞腫瘍の発生の仮説、細胞腫の分化



や移植について詳しく説明された。産婦人科におけるこれらの発生学・遺伝子研究は、周産期医学にくらべるとマイナーだが、研究の刺激になるといえる。約50分の講話のあと、村瀬靖(昭30卒、前日母常務理事、君から、胎児組織移植の倫理綱領「のとはな宣言」が紹介された。これは会員へのアンケートから作成したものである。落合会長(昭18卒)が「関谷教授の就任を祝い、当会の発展を」と乾杯の音頭をとりディナーが始まる。ホテルオークラ

桃花林の味は定評があるが、スカイレストランもグルメの舌を満足させる。蟹の玉子入りふかのひれ、北京ダック・アワビのオイスターソースなど10品、ディナーの最中、出席者がこもこも近況を述べたが、アルコールは入っていても、静かな雰囲気なので、皆が耳を傾ける。35階なので窓外の景色は航空機の窓を連想させる。同伴の夫人を含め出席者は35名。三時間半は早く過ぎ、7時半近く宴を閉じた。

同期会や地区会など、のとはな会員の会合は多いが、美食(幻)の酒

「越力寒梅」も出るをうたった「首都圏産婦人科のなな会」の内容は珍しいのではないかな。

案内は、同窓会名簿から抽出しているが、出席希望で案内された方は、産婦人科医局へ照会された。開催は年に二、一回、入会金や年会費はなく、当日会費ですべてをまかなっている。(望月良夫(昭30卒)記)

安房のなな会



安房のなな会総会は平成5年(93年)2月17日(水)脳神経外科、山浦量教授をお迎えし、館山市、ホテル海幸苑にて開催された。開会に先立って、昭和54年の総会を撮影したビデオを観賞したが、20数名出席の盛会で、中に物故された会員の元氣な姿も現われ、懐かしい情景の展開に感慨も一入であった。しかし、この2年間に常連を6名も送り、出席者11名とは寂しい限りであった。総会議事の後、今回のメインは、山浦教授の「脳神経外科最近の話題」で、M

健康教育方法の改革を求めて

千葉県医師会 長

渡辺

武(昭27卒)

申すまでもありませんが、医学・医療の進歩は、まさに目を見張るものがあります。良質の医療を地域に還元する事をもって、使命としております我々にとって、日々の研修は、欠く事ができません。しかし、あまりにも専門分化しすぎて、グレンツケビートの内容を理解する事は、甚だ困難となってきました。インフォームド・コンセントの大切さは良く分かっていますが、具体的に、患者さんのレベルに合わせて、納得してもらうことは、とうてい困難だと思います。医学情報の多様化は、テレビ・ビデオ・通信衛生・新聞・雑誌はもとより、毎日、洪水のように氾濫しており、いづれも一方通行の解説に過ぎず、情報提供側の自己満足に終わっており、一方、これからの世界まれに見るスピードで迫ってくる高令

社会に対応するには、一般国民の「自分のからだは、自分でまもる」姿勢が強く求められております。各医師会に於いても、健康教育事業は、最も重要なこととして、多彩な内容で開かれておりますが、沢山のテーマ、対応する講師の選定、受講者の都合に合わせた時間の設定、駐車場を確保した場所の確保、わかりやすいテキスト・スライドの作成、費用の問題などなど問題山積しており、住民のほうも、出席者の固定化を初めとして希望するテーマ、時間、内容の程度など不満も様ではあります。では、どうするかです。

利用側の都合に合わせて、いつでも、自由な時間に、わかりやすい、立体的な、コンピュータグラフィックを駆使した、疑似体験もできる一方通行でないシステムがどうしても必要です。五感を通じての生きた、面白い研修方法は、その内容を組み合わせることににより、国民一般はもとより、医療関係者の生涯教育施設として利用して頂く。ひろく医学に対して理解を求め、いま、最も欠けている、そして最も大切な「国民こそつての支え合い、ケアリング・ソサエティー」を合い言葉とする事もできると思っております。そのような施設をつくる運動をしておりま

千葉大学医学部

記念講堂

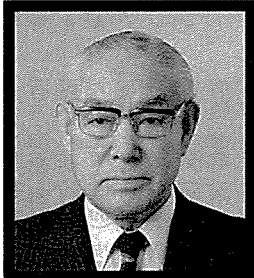
改修される

医学部記念講堂は築後29年を経過老朽化してきたため、改修工事が平成5年2月5日(同7月30日まで)行われ無事完了した。暖房機器の更新、屋根アスファルトの防水、アルミサッシの取り付け、照明器具の更新などの改修が主として行われた。

おくやみ

大塚 三八雄氏 (昭6卒)
筒井 榮氏 (昭6卒)
横山 達雄氏 (昭12卒)
土屋 隆義氏 (昭13卒)
奥 瀬 三氏 (昭16卒)
岩井 義昇氏 (昭18卒)
松澤 義人氏 (昭19卒)

ゐのはな同窓会名誉会長 故小林金市先生 追悼の辞



小林金市先生は、平成5年12月17日早朝、心不全のため、86才の生涯を閉じられました。

先生が教室の同窓会誌に寄稿されました医局の思い出の中に、「昭和8年大学医学部はともかく、野球部だけは立派に卒業して産婦人科に入局した」と、書かれております。先生が野球の名プレイヤーであったことは伝説となっており、入局後は戦時下の教室で大変苦勞されたものであります。終戦直後千葉医科大学付属専門部教授となられ、昭和22年に辞任され、現在の加藤病院を引き継がれたと承っております。先生のお人柄と

萩野 博氏 (昭23卒)
伊藤 賢一氏 (昭24卒)
石井 明和氏 (昭25卒)
高久 昇氏 (昭25卒)
千葉 悦郷氏 (昭25卒)
川名 正直氏 (昭34卒)
重広 信三郎氏 (昭37卒)
薬師寺 隆氏 (昭41卒)
阿相 幸治氏 (昭52卒)
小林 金市氏 (昭8卒)

腕は評判でありまして、私も先生の薫陶を蒙ってお手伝いさせていただいたのが、懐かしく思い出されます。

先生は開業の傍ら数え切れないほどの役職をこなしてこられました。先生は産婦人科に止まらず千葉県の医療全般の向上のために努力されてこられました。昭和52年には県の医師会長に就任されました。また日本産婦人科学会千葉支部長、日本母性保護協会千葉支部長を長年にわたって努められ昭和50年には第51回産婦科学会関東連合地方部会を主催され、本年日本母性保護協会の名誉会員に推挙されたばかりであります。

先生はご円満なお人柄で誰からも慕われてまいりましたが、明晰な頭脳と適確な判断で難問をテキパキと解決されました。ゐのはな同窓会長、教室の同窓会長は先生をおいて外になく、いつも先生をお招きしての懇親会はお酒をいしそくに召し上がる先生を囲んで時間を忘れるほどでありました。全く病を知らぬ頑健そのものの先生が天寿を全うされたのですが、いつまでも私達のお手本としてお

第十八回ゐのはな美術展開催

平成5年7月13日から19日まで七日間、例年どおり東京銀座集雅堂で開催しました。

今年は出品者22名、非出品者五名その他特別出品者として二名の医学部学生が参加して、作品数38点の盛会でした。昭和38年卒の大木勲氏が新たに参加しました。会員及び観展に来られた方々から今年は今までになく華やかで充実した展覧会であったとの声を耳にしました。第19回展は平成6年7月12日・18日を予定しております。同窓会員の参加を希望しております。出品作品と会員はつぎのとおりです。

美術展出品作品
井上 通 (昭24卒)
水彩 ①花 ②花 10号
長谷川 鎮雄 (昭35卒)
油彩 風景 10号
仲村 長正 (昭29卒)
油彩 ①アルハンブラの中庭 ②ケエル公園 10号
神山 英明 (昭22卒)
油彩 ①ソファのヌード

平成5年7月13日から19日まで七日間、例年どおり東京銀座集雅堂で開催しました。今年は出品者22名、非出品者五名その他特別出品者として二名の医学部学生が参加して、作品数38点の盛会でした。昭和38年卒の大木勲氏が新たに参加しました。会員及び観展に来られた方々から今年は今までになく華やかで充実した展覧会であったとの声を耳にしました。第19回展は平成6年7月12日・18日を予定しております。同窓会員の参加を希望しております。出品作品と会員はつぎのとおりです。

導きを願っております。悲しい極みであります。私達は先生の遺された精神にのっとり、更に発展するよう努力致す覚悟であります。先生が安らかに眠られますようお祈り申し上げます。

関谷 宗英 (昭40卒) 記



今井 知文 (昭4卒)
油彩 語り 30号
山川 晋吾 (昭24卒)
移坊 10P
内田 成和 (昭17卒)
陶器 ①ポビー文皿 ②椿文 瑞穂釉水指
大村 光 (昭17卒)
油彩 ①バラ 20号 ②サリヤ サルデーテ教
今井 力 (昭22卒)
油彩 エルベ広場にてイ
タリーベエローナ
池田 脩三 (昭6卒)
油彩 椿
酒井 忠昭 (昭42卒)
油彩 ①港暮色 6号 ②入江初夏 10号
斎藤 宗寿 (昭16卒)
油彩 ①ロンドン塔 4号 ②廢屋 6号
長尾 透 (昭16卒)
油彩 紹興 12号
野口 眞利 (昭40卒)
油彩 ①街の夜明 20F ②荒川の夏 15F
宮下 久夫 (昭38卒)
日本画 千両
大木 勲 (昭38卒)
油彩 風景 30F
神作 憲司 (医学部5年)
日本画 城
西村 克樹 (医学部6年)
油彩 バラ
ゐのはな美術展事務所
東京都新宿区
高田馬場1-25-129
TEL 03-3200-0078
石谷 医院 石谷 治彦 (昭24卒)

猪之鼻奨学会

への寄付

山根 靖弘 (千葉大学名誉教授・薬学部)
100万円 (平成3年4月4日)
近藤洋一郎 (昭33卒・千葉大学名誉教授・医学部)
30万円 (平成3年4月15日)
奥井 勝二 (昭28卒・前千葉大学名誉教授・医学部)
50万円 (平成3年5月9日)
牧野 博安 (昭25卒・千葉大学名誉教授・医学部)
50万円 (平成3年7月2日)
ゐのはな同窓会
30万円 (平成4年1月30日)
故・栗山 正子 (栗山喬之・昭43卒・母堂)
20万円 (平成4年2月26日)
近藤洋一郎 (昭33卒・千葉大学名誉教授・医学部)
30万円 (平成4年4月1日)
本田 良行 (金沢大・昭25卒・千葉大学名誉教授・医学部)
10万円 (平成4年10月20日)
ゐのはな同窓会
30万円 (平成4年11月26日)
金久保好男 (東大・昭27卒・前千葉大学薬剤部長 (教授)
10万円 (平成5年1月29日)
岡本 昭二 (昭27卒・千葉大学名誉教授・医学部)
50万円 (平成5年6月2日)
稲垣 義明 (昭26卒・千葉大学名誉教授・医学部)
50万円 (平成5年6月7日)
高見沢裕吉 (昭27卒・千葉大学名誉教授・医学部)
50万円 (平成5年6月29日)
ゐのはな同窓会
30万円 (平成5年12月13日)

国公立病院 勤務医師名簿

本号より、国公立病院を中心に各病院に勤務する本学出身者(医長職以上)の氏名を掲載させて頂きます。未掲載の病院は、その名簿を、既掲載の病院は昇任者・転任者の名簿を、同窓会事務局宛にお知らせ下さい。(数字は卒業年)

国立千葉病院

院長 森 博志 (昭31) 内科
副院長 武者 廣隆 (昭40) 内科
医長 吉田 孝宣 (昭46) 内科
鈴木 一郎 (昭42) 外科
青木 靖雄 (昭43) 外科
永瀬 譲史 (昭50) 整形外科
石毛 尚起 (昭54) 心外
西澤 聡明 (昭59) 皮膚
大類 聡明 (昭59) 皮膚
小堀 恒雄 (昭31) 産婦
宮崎 泉 (昭54) 眼科
内藤 準哉 (昭42) 耳鼻
青柳 光生 (昭49) 麻酔
高澤 博 (昭39) 検査

国立習志野病院
院長 香田 眞一 (昭31) 外科
副院長 五十嵐正彦 (昭34) 内科
医長 隆 元英 (昭50) 内科
伊藤 文雄 (昭37) 外科
花輪 孝雄 (昭45) 外科
山本 和夫 (昭51) 外科
竹内 孝 (昭32) 整形外科
村山 憲太 (昭38) 整形外科
細井 湧一 (昭44) 脳外
外間 孝雄 (昭37) 泌尿
堀田とし子 (昭35) 放射

国立佐倉病院
院長 横山 健郎 (昭36) 外科

副院長 柏原 英彦 (昭41) 外科
医長 土田 弘基 (昭43) 内科
山田 研一 (昭47) 内科
佐藤 慎一 (昭55) 内科
坂本 薫 (昭51) 外科
香村 衡一 (昭52) 皮膚
国立がんセンター中央病院
名誉院長市川平三郎 (昭23) 癌
院長 高安 賢一 (昭48) 放射
松江 寛人 (昭37) 放射
平賀 一陽 (昭42) 麻酔
横川 陽子 (昭53) 麻酔
高山 順 (昭52) 小児
村松 幸男 (昭51) 放射

国立がんセンター東病院
部長 森山 紀之 (昭48) 放射
竜 崇正 (昭43) 放射
梅田 透 (昭48) 放射
五十嵐忠彦 (昭54) 内科
新井 竜夫 (昭53) 外科
縄野 繁 (昭56) 放射
萩野 尚 (昭57) 放射
伊藤 國明 (昭49) 内科
高地 哲夫 (昭55) 麻酔
西野 卓 (昭47) 麻酔
谷山 新次 (昭55) 外科
脇田 久 (昭56) 内科

国立精神神経センター
(国府台病院)
部長 齊藤 利隆 (昭36) 内科
高室昌一郎 (昭30) 精神
清水順三郎 (昭34) 精神
大木 健資 (昭40) 精神
田中 真 (昭49) 内科
石川 鉄男 (昭26) 精神
熊田 正義 (昭38) 精神
齊藤万比古 (昭50) 精神
北村 温 (昭38) 泌尿
林 謙二 (昭50) 整外

国立精神神経センター (精神保健研究所)

研究部長 高橋 徹 (昭35) 精神
福井 勇 (昭36) 精神
吉川 武彦 (昭36) 精神
研究室長 和田 清 (昭55) 精神
原 仁 (昭51) 小児
伊豫 雅臣 (昭59) 精神
国立療養所下志津病院
院長 山崎 武 (昭31) 外科
副院長 西平田敏之 (昭42) 小児
医長 末石 真 (昭48) 内科
関根 邦夫 (昭50) 小児
一木 昇 (昭48) 外科
柿沼 宏明 (昭55) 小児
和泉 佳子 (昭43) 内科
渡邊 博子 (昭49) 小児

おの は な 同 窓 会 常任理事会議事録 第六回

日時：平成5年11月24日
場所：同窓会館一階会議室

議事内容
1. 会則改正について、清水常任理事より、賛助会員の規定(第4章第5条、第9章第41条との関連)や同窓会と四金会との関連と実情などについて、会則を改正する方向で会則改正委員会を設置する旨提案があり、種々問題点について議論の後、学内外の常任理事などからなる会則改正委員会を発足させることが了承された。

2. 医学部教育助成について、清水常任理事より本年度の助成について、白菊会に30万円、医学部大講義室のエアコン装置に200万円

(次年度分は150万円を予定)を助成する旨説明があり了承された。

3. 同窓会会員の渡辺千葉県医師会会長の特別寄稿の郵送について、日本健康科学センターの設立に関する渡辺会長の説明があり、大学・同窓会としても支援する方針から、同窓会報発送に際して郵送の便宜をはかる旨了承された。

4. 同窓会事務担当者の待遇改善について、清水常任理事より改善を図りたい旨説明があり、平成6年4月分より時間給を引き上げること了承した。

5. その他、渡辺千葉県医師会会長よりプライマリケア学会への助成を願いたい旨説明があり、同窓会として助成することを了承した(10万円)。

報告事項
1 同窓会報の発行状況について、鈴木(信)編集委員より104号の発行時期などの報告があった。また、紙面改善や印刷期間の短縮などの変更を考慮中との報告があった。

2 同窓会名簿の進捗状況について、清水常任理事より説明があった。

3 会費の納入状況について、清水常任理事より本年度の納入率は現在約46%程度である旨説明があった。

4 会員総合保障制度の加入状況について、順調に加入者が増加し、事務費の納入も増加している旨報告があった。

5 その他、山梨同窓会会員より、医学部学生を地方に派遣し、その報告記などを会報に載せたらとの提案があり、過去に実施した経緯もあり、前向きに検討することとした。

四金会

日時：平成5年11月24日
場所：同窓会館一階会議室
貫洞副会長の司会により定刻に開始された。本年度叙勲者、表彰者、就任・昇任の教授・助教授・講師の紹介と挨拶があり、近藤医学部長の音頭で乾杯後、和やかに歓談の一時を過ごした。

人事移動

教授昇任(千葉大学)
一瀬 正治 (昭43卒)
形成外科(帝京大助教授より)
教授昇任(他大学)
秦 維郎 (昭42卒)
香川医大形成外科 同助教授より
白石 博康 (昭36卒)
筑波大臨床医学系精神医学(同助教授より)
斎藤 康 (新大昭43卒)
山形大臨床検査医学講座(千大内科学第二講師より)
内科学第二講師より
坂本 尚志 (旭川医大昭55卒)
旭川医大生理学第二(千大生理学第一助教授より)
講師昇任(千葉大学)
宮崎 勝 (昭50卒)
附属病院第一外科(同助手より)
高橋喜久雄(日大昭53卒)
歯科口腔外科学(同助手より)

おの は な 同 窓 会 役員改選

今年はおの は な 同窓会役員改選の年に当たりますので、同封の年書に貴クラスから適当と思われる方2名を役員候補者としてご推薦の上、2月10日までにご返信下さい。

編集後記

同窓会事務局では、同窓会名簿の発行に続いて、同窓会報の編集があり、多忙を極めました。が、郵送料値上げ前にすべてを終らせられる見通しが立ちました。

花沢 武雄(城西大昭53卒)
附属病院歯科口腔外科(歯科口腔外科学助手より)
森崎 信尊(昭50卒)
内科学第二(同助手より)
高橋 長裕(昭45卒)
内科学第三(国立循環器病センター臨床検査部医長より)
高原 善治(昭49卒)
外科学第一(同助手より)

(嶋田 裕)